

2015年4月

高知県感染症情報センター

高知県衛生研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

## 全国情報

第14週(3月30日～)から第18週(～5月3日)までの5週間に報告（以下は4週間に換算した数値を示す）の多かった疾患は表1のとおりである。

4月の上位6疾患の合計は52.17（5週間の実数は65.21）で、3月62.51よりも減少した。

インフルエンザと感染性胃腸炎の減少がその主因である。インフルエンザは第4週をピークに毎月順調に減少し、終息に向かっている。報告数第1位の感染性胃腸炎も、4月26.04（3月1位32.58）と減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2位に順位を上げたが10.73（同3位11.86）とわずかに減少、それでも過去10年間の同時期では最多である。手足口病が3.18（同7位1.7）と増加し4位に、伝染性紅斑が2.57（同9位1.61）と増加して5位になり、今後の動向が注目される。ロタウイルス胃腸炎は、近年の流行シーズンにあたっており、順位を7位に下げたが2.08（同6位1.81）とまだ増加傾向にあり引き続き注意が必要である。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	感染性胃腸炎		6.13	5.82	6.84	7.19	6.60	32.58
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.13	2.20	2.87	3.18	3.03	13.41
3	インフルエンザ		2.14	1.57	2.06	2.02	1.43	9.22
4	手足口病		0.45	0.54	0.77	1.06	1.15	3.97
5	伝染性紅斑		0.46	0.45	0.73	0.78	0.79	3.21
6	突発性発疹		0.48	0.54	0.57	0.62	0.61	2.82

## 県内情報

## 1. 全国との対比（定点当たり報告数）

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	感染性胃腸炎		4.53	4.70	4.77	4.53	4.40	22.93
2	インフルエンザ		4.92	2.46	3.23	2.48	0.96	14.05
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.63	1.83	2.47	2.10	2.70	10.73
4	手足口病		1.17	0.60	1.73	2.23	2.27	8.00
5	流行性耳下腺炎		0.63	0.60	0.70	0.47	0.87	3.27
6	マイコプラズマ肺炎		0.75	0.50	0.63	0.38	0.50	2.76

高知県の3月の上位6疾患の合計は61.74、比較のため4週間に換算すると49.39で、3月77.4から減少し、全国よりもやや少なくなった（表2）。上位3疾患はインフルエンザが減少し、1位2位が入れ替わり、感染性胃腸炎が1位になった。インフルエンザは、3月は38.17と全国都道府県別で最大の報告であったが、波打ちながら減少し、まだ全国よりも多めではあるが、ようやく終息に向かいそうである。

感染性胃腸炎（3月2位21.97）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（同3位9.26）は全国よりも少ない。手足口病は大幅に増加し（同5位2.84）、全国よりも多く報告された。流行性耳下腺炎はわずかに減った（同4位3.47）が全国よりも多い。水痘は横ばいであるが他の減少にともない6位に上がった。マイコプラズマ肺炎が増加し（同7位1.63）、全国よりも多い。RSウイルス（同8位1.43）は0.88に減少し10位になった。

## 2. 全体の傾向

インフルエンザは減少し終息に向かっている。第1位の感染性胃腸炎、2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少傾向にあるものの依然多く報告されている。手足口病の増加が顕著で、マイコプラズマ肺炎の増加も注目される。全国的に増加が注目されている伝染性紅斑は高知県では3月0.29から4月0.34と増加はゆるやかである。ロタウイルス胃腸炎は3月1.02、4月1.41と増加し引き続き注目される。

麻しん、風しんの報告なし。

## 3. 主な疾患の発生状況

### 1) インフルエンザ

報告数 674名 (3月1832名)。第6週に警報値30を、第10週に9.90と注意報値10を下回ったが、第11、12週に再び10.88、11.29と注意報値を上回り、第13週に6.10と再び減少し次第に終息に向かっている。高知県での定点あたりの報告数は、3月は全国第1位だったが4月は9位に下がり他に上位を譲った。県下での流行規模も過去10年間では12年、05年に次ぐ流行となりそうである。地域差があり、中央西19.80、高知市16.50と高く、中央東14.73、幡多13.27、安芸6.00、須崎4.75であった。年齢別では、5～9歳201名、10～14歳121名、1～4歳99名、30～39歳58名と40～49歳が56名で、小中学生とその親の世代が多い。ウイルスはB型 NTの1件のみが検出された。A型にかわってB型の流行が優勢となったことが第11・12週の再増加に結び付いたものと推測される。過去10年間の分析で、B型の流行はゴールデンウィーク頃まで持続することが多く終息しそうな兆しがある。

### 2) 咽頭結膜熱

報告数 10名 (3月12名)。Adenovirus 5型と6型が検出されている。

### 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 322名 (3月278名)。2014年10月からつづいた増加が減少に転じた。高知市、須崎、幡多からの報告が多い。細菌は検出されていない。

### 4) 感染性胃腸炎

報告数 688名 (3月659名)。報告数は1位だが報告数は減少している。安芸、須崎、中央東、中央西、高知市の順に多い。ウイルスはNorovirus II NTが7件、Sapovirusが1件検出されている。

### 5) 水痘

報告数 48名 (3月51名)。過去10年間3月4月の報告数100～400名に比べると、本年の報告数は少ない。ワクチン定期化の効果であろう。

### 6) 手足口病

報告数 240名 (3月85名)。6月7月から流行が始まる年が多いが、春の流行としては過去10年間で最大のものとなっている。幡多、安芸、高知市、中央東で多い。ウイルスは発疹症の1歳児からCoxsackievirus A16が1件検出され、手足口病例から2015年は計12件同ウイルスが検出されている。脳幹脳炎に関連するEnterovirus 71は1例も検出されていない。

### 7) 伝染性紅斑

報告数 13名 (3月9名)。全国では過去5年間の同時期と比較してかなり多く、上位3位は滋賀県、福島県、埼玉県である。3月末の検体からParvovirus B19が1件検出された。流行年では春から夏にかけて増加するので今後の動向が注目される。

### 8) 突発性発疹

報告数 71名 (3月40名)。想定内の変動である。

### 9) 百日咳

報告数 3名 (3月1名)。0歳、9歳児、成人例が各1例、高知市から報告された。13年4月の13名以降、1桁の報告が続いている。

- 10) ヘルパンギーナ  
報告数 9名 (3月3名)。毎年夏に向けて流行が予測される。
- 11) 流行性耳下腺炎  
報告数 98名 (3月104名)。安芸、幡多、高知市で多い。3月に大幅に増加したが、4月は減少に転じた。
- 12) RSウイルス感染症  
報告数 33名 (3月43名)。今季は8月に流行が始まり12月233名をピークに徐々に減少してはいるものの、完全に終息していない。幡多、高知市、中央東からの報告が多い。
- 13) 流行性角結膜炎  
報告数 2名 (3月1名)。ここ3年間は一桁で推移している。
- 14) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)  
報告数 22名 (3月13名)。高知市、幡多で多い。10名~20名代で推移しているが、増加の傾向にある。

基幹定点の月報疾患

- 15) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症  
報告数 22名 (3月24名)。20名前後で推移し変化はない。
- 16) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症  
報告数 1名 (3月0名)。高知市の60歳代患者が報告された。2014年は計4例、2015年は初例の報告である。

高知県感染症発生動向調査部会  
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (平成27年4月)

類型	病名	報告月				総計
		1月	2月	3月	4月	
2	結核	11	16	14	13	54
4	A型肝炎	1	1	1		3
	デング熱				1	1
5	アメーバ赤痢		1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3	2	1	1	7
	急性脳炎			1		1
	後天性免疫不全症候群			1	1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1			1
	侵襲製肺炎球菌感染症	2	1		1	4
	破傷風			1		1
	梅毒				1	1
	水痘(入院例に限る)				1	1
	総計	17	22	19	19	77

# 高知県感染症情報 月報(64定点医療機関)

2015年

4月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ	24	162	264	99	19	106	674	1,832	781
小児科	咽頭結膜熱		1	5		1	3	10	12	15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	24	193	11	27	62	322	278	57
	感染性胃腸炎	78	176	248	74	67	45	688	659	1,167
	水痘	1	12	13	14	2	6	48	51	154
	手足口病	12	34	64	3	1	126	240	85	
	伝染性紅斑		3	6	2	1	1	13	9	3
	突発性発疹	4	13	35	5	6	8	71	40	48
	百日咳			3				3	1	3
	ヘルパンギーナ	1		4			4	9	3	2
	流行性耳下腺炎	33	4	33	2	1	25	98	104	171
	RSウイルス感染症	1	6	13		1	12	33	43	16
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	1	6
STD	性器クラミジア感染症			2				2	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症								1	
基幹	細菌性髄膜炎		2	1				3	1	1
	無菌性髄膜炎			1				1	3	
	マイコプラズマ肺炎	1	1	17			3	22	13	22
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			6				6	3	1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)		1	12			1	14	8	31
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	4	12			1	22	24	24
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		2
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		165	443	935	210	126	403	2,282	3,172	2,505
前月		244	602	1,262	471	171	422			
前年同月		136	437	1,163	330	131	308			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

# 高知県感染症情報 月報(64定点医療機関)

2015年

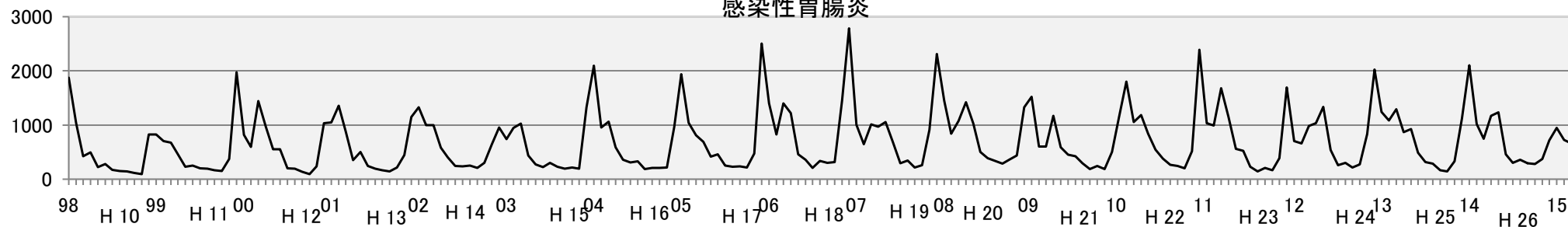
4月

定点当たりの人数

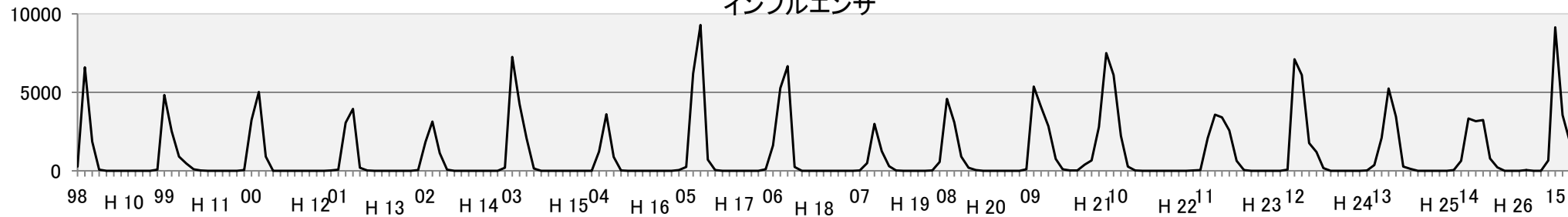
定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ	6.00	14.73	16.50	19.80	4.75	13.27	14.05	38.17	16.27	
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.45		0.50	0.60	0.33	0.41	0.50	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	3.42	17.55	3.66	13.50	12.40	10.73	9.26	1.90	
	感染性胃腸炎	39.00	25.14	22.55	24.66	33.50	9.00	22.93	21.97	38.90	
	水痘	0.50	1.72	1.18	4.67	1.00	1.20	1.60	1.69	5.14	
	手足口病	6.00	4.85	5.81	0.99	0.50	25.20	8.00	2.84		
	伝染性紅斑		0.42	0.54	0.66	0.50	0.20	0.43	0.29	0.09	
	突発性発疹	2.00	1.86	3.19	1.66	3.00	1.60	2.37	1.34	1.60	
	百日咳			0.27				0.10	0.03	0.10	
	ヘルパンギーナ	0.50		0.36			0.80	0.30	0.09	0.06	
	流行性耳下腺炎	16.50	0.57	2.99	0.66	0.50	5.00	3.27	3.47	5.70	
	RSウイルス感染症	0.50	0.86	1.17		0.50	2.40	1.10	1.43	0.53	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			2.00				0.66	0.33	1.99	
STD	性器クラミジア感染症			1.00				0.33	0.17	0.17	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ										
	淋菌感染症								0.17		
基幹	細菌性髄膜炎		2.00	0.20				0.39	0.13	0.13	
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13	0.38		
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	3.40			3.00	2.76	1.63	2.77	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1.20				0.76	0.38	0.13	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)		1.00	2.40			1.00	1.76	1.02	3.88	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5.00	4.00	2.40			1.00	2.75	3.00	3.00	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			0.20				0.13		0.25	
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
小児科定点分計		73.50	53.71	72.56	56.76	58.25	71.67	65.21	80.99	70.79	
前月		90.75	68.93	89.61	104.46	65.00	70.76				
前年同月		49.50	51.66	90.99	99.59	55.75	51.68				

# 注目される疾患別月別推移

## 感染性胃腸炎



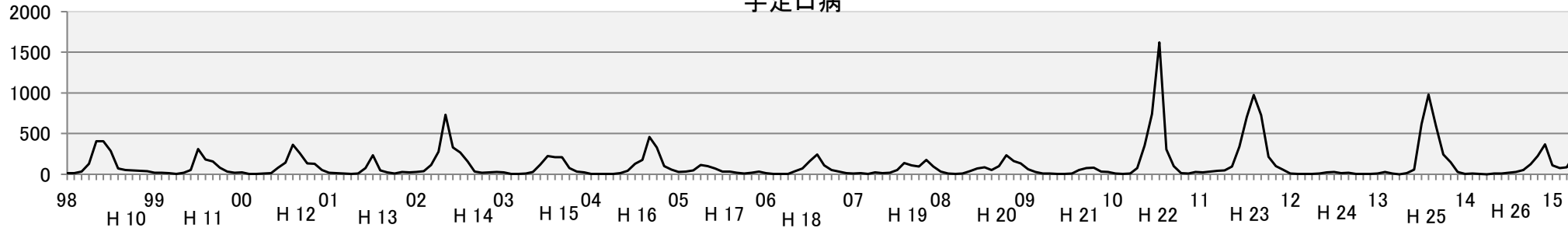
## インフルエンザ



## A群溶血性レンサ球菌感染症



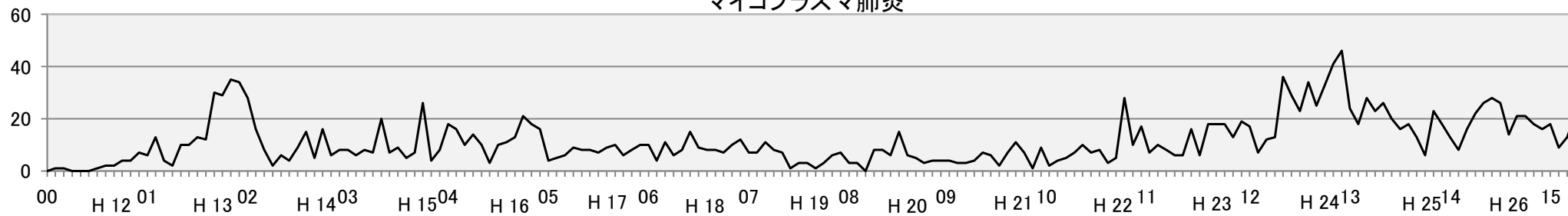
## 手足口病



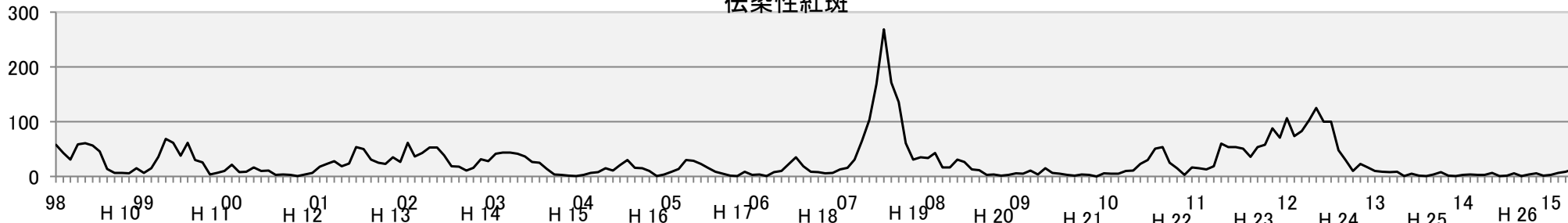
## 流行性耳下腺炎



## マイコプラズマ肺炎



## 伝染性紅斑



## 突発性発疹



## 高知県感染症情報（月報）

平成 27年4月

## 検査情報

## ウイルス、細菌の分離状況

4月はウイルス 98件、細菌 5件の搬入があり、そのうちウイルス 28件の病原体を検出した。また、平成26年3月に搬入された検体でウイルス 15件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 1 1件、Adenovirus 6 1件、B19 virus 1件、Coxsackievirus A16 1件、Cytomegalo virus 2件、Echovirus 18 1件、Human herpes virus 6 1件、Human herpes virus 7 4件、Human metapneumovirus 4件、Influenza virus AH3 NT 1件、Influenza virusB NT 1件、Influenza virusB/Yamagata 2件、Noro virus G II NT 12件、Rhinovirus 7件、Sapo virus genogroup unknown 4件であった。（※印のInfluenza virusB/Yamagataは3月にPCR検査で検出した後ウイルスを分離培養したものです。）

## ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	14	男	不明発疹症	38℃,発疹,	ぬぐい液	3/3	Human herpes virus 7
2	7	女	インフルエンザ	39℃,咳漱,上気道炎,	ぬぐい液	3/23	Influenza virus B/Yamagata※
3	2	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	3/23	Cytomegalovirus
4	1	女	感染性胃腸炎	38℃,下痢,	ふん便	3/24	Sapovirus genogroup unknown
5	6	男	インフルエンザ	38℃,下痢,	ぬぐい液	3/26	Influenza virus A H3 NT
6	5	女	感染性胃腸炎	38℃,下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	3/26	Norovirus GII NT
7	1	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	3/26	Human herpes virus 6
8	3	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	3/27	Norovirus GII NT
9	13	男	急性脳炎脳症	40℃,中枢神経系障害,	髄液	3/27	Human herpes virus 7
10	1	女	不明熱	40℃,咳漱,	ぬぐい液	3/27	Human metapneumovirus
11	10	女	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,腹痛,	ふん便	3/28	Norovirus GII NT
12	36	男	インフルエンザ	38℃,関節痛,	ぬぐい液	3/29	Influenza virus B/Yamagata
13	6	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	3/30	Norovirus GII NT
14	6	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	3/30	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
15	5	男	伝染性紅斑	38℃,嘔吐,嘔気,腹痛,咳漱,発疹,	ぬぐい液	3/30	B19 virus
16	2	男	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,	ふん便	3/31	Norovirus GII NT
17	3	女	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/1	Norovirus GII NT
18	3	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/1	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown
19	2ヶ月	男	百日咳疑い 気管支炎 肺炎	咳漱,上気道炎,	鼻腔ぬぐい	4/1	Rhinovirus
20	5	女	不明熱	40℃,下痢,	ぬぐい液	4/1	Human metapneumovirus
21	2	女	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/2	Norovirus GII NT
22	73	男	インフルエンザ	38℃,咳漱,	ぬぐい液	4/4	Influenza virus B NT
23	1	男	咽頭結膜熱	40℃,嘔吐,嘔気,	ぬぐい液	4/6	Adenovirus 5
24	2	女	咽頭結膜熱	40℃,腹痛,	ぬぐい液	4/6	Adenovirus 6
25	1	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	4/6	Echovirus 18
26	1	男	不明発疹症	39℃,咳漱,発疹,	ぬぐい液	4/6	Human herpes virus 7
27	9ヶ月	女	不明発疹症	40℃,下痢,発疹,	ぬぐい液	4/7	Cytomegalovirus
28	2	女	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/7	Norovirus GII NT
29	2ヶ月	女	無菌性髄膜炎の疑い	38℃,咳漱,発疹,	ぬぐい液	4/7	Rhinovirus
30	4	男	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/10	Norovirus GII NT
31	2	女	発疹症		ぬぐい液	4/10	Rhinovirus
32	1	女	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,	ふん便	4/12	Norovirus GII NT
33	4	男	急性気管支炎	咳漱,	鼻咽腔ぬぐい液	4/13	Rhinovirus
34	2	男	急性気管支炎	38℃,咳漱,気管支炎,	鼻汁吸引液	4/13	Rhinovirus
35	11ヶ月	男	咽頭結膜熱	40℃,	ぬぐい液	4/13	Human metapneumovirus
36	2	男	手足口病	手足口病症状,	ぬぐい液	4/13	Human herpes virus 7
37	1	男	発疹症		ぬぐい液	4/13	Coxsackievirus A16
38	10ヶ月	男	不明発疹症	40℃,嘔吐,嘔気,咳漱,発疹,	ぬぐい液	4/13	Rhinovirus
39	1	男	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	ふん便	4/14	Sapovirus genogroup unknown
40	3	男	伝染性紅斑	咳漱,発疹,	ぬぐい液	4/15	Rhinovirus
41	1	男	急性気管支炎	40℃,咳漱,	ぬぐい液	4/20	Human metapneumovirus

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2015年				2015年総
		1	2	3	4	
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes T4</i>			1		1
	<i>Streptococcus pyogenes T6</i>		2	5		7
	<i>Streptococcus pyogenes T12</i>		1			1
	<i>Streptococcus pyogenes TB3264</i>	1				1
	計	1	3	6		10
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	38	10	4		52
	Influenza virus B NT	2	1	4	1	8
	Influenza virus B /Victoria					
	Influenza virus B Yamagata	2	3	3		8
	Parainfluenza virus 3					
	Rhinovirus					
計	42	14	11	1	68	
咽頭結膜熱	Adenovirus 5				1	1
	Adenovirus 6	1			1	2
	Cytomegalo virus		1			1
	Echovirus 11					
	Epstein-Barr virus		1			1
	Human metapneumovirus				1	1
	Rhinovirus	1	1			2
計	2	3		3	8	
感染性胃腸炎	Astrovirus NT		1			1
	Echovirus 3	1				1
	Norovirus GII NT	6	5	12	7	30
	Rotavirus group AG1		1	2		3
	Sapovirus genogroup unknown	2	2	4	2	10
	計	9	9	18	9	45
手足口病	Coxsackievirus A16	6	5	1		12
	Human herpes virus 7				1	1
	Norovirus GII NT	1				1
	Rhinovirus	2				2
	計	9	5	1	1	16
百日咳	<i>Bordetella parapertussis</i>	1				1
	<i>Bordetella pertussis</i>	1				1
	Rhinovirus				1	1
	計	2			1	3
流行性耳下腺炎	Epstein-Barr virus		1			1
	計		1			1
無菌性髄膜炎	Rhinovirus				1	1
	Respiratory syncytial virus A			1		1
	計			1	1	2
その他	Adenovirus 1	1	1			2
	Adenovirus 2	1				1
	Adenovirus 6	1		1		2
	B19virus			1		1
	Coxsackievirus A4	1				1
	Coxsackievirus A16				1	1
	Cytomegalo virus	1	1	1	2	5
	Echovirus 3	1				1
	Echovirus 18	1		1	1	3
	Epstein-Barr virus		1	2		3
	Human herpes virus 6			1		1
	Human herpes virus 7			4	1	5
	Human metapneumovirus		2	2	2	6
	Influenza virus A H3 NT	1		1		2
	Parainfluenza virus 1		1			1
	Parainfluenza virus 3	1				1
	Respiratory syncytial virus A	2	4			6
	Rhinovirus	3	3	6	5	17
	計	14	13	20	12	59
	<b>総計</b>	<b>79</b>	<b>48</b>	<b>57</b>	<b>28</b>	<b>212</b>



## インフルエンザ有効防御免疫状況について

本年度は、次の4抗原に対する抗体価について、インフルエンザ流行シーズン前の抗体保有状況（県内407名：感受性調査）を調査した。

- 1 A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09
- 2 A/New York (ニューヨーク) /39/2012 (H3N2)
- 3 B/Massachusetts (マサチューセッツ) /02/2012 (山形系統)
- 4 B/Brisbane (ブリスベン) /60/2008 (ビクトリア系統)

そのうち1~3が2014/15シーズンのワクチンに使用されている株である。ワクチン株3株の内、2のH3N2株は昨年のワクチン株から変更された。

感染を防御できる抗体保有率(有効防御免疫の指標とみなされるHI抗体価40倍以上:以下、抗体保有率という)の全年齢群平均はA型(H1N1pdm09)72.0%、A型(H3N2)73.5%、B型山形系統のMassachusetts (マサチューセッツ)65.4%、B型ビクトリア系統のBrisbane (ブリスベン)52.3%であった(表1,2,3,4)。

### 1 A型のHI抗体保有率

A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09の抗体保有率は、15~19歳が100%と最も高かったが、年齢区分が高くなるにつれて低くなった。全体での保有率は昨年度(58.6%)より高かった。

A/Texas (テキサス) /50/2012 (H3N2)の抗体保有率は5~9歳と10~14歳が100%と最も高く、0~4歳が12.0%と最も低かった。

表1

年齢区分											抗体保有率	
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍 $\leq$	総計	40 $\leq$ (%)	
0~4	21	1		1			1	1		25	12.0	
5~9		1	1	3	4		2	4	3	2	20	90.0
10~14		1	1	1	2	2	8	13		2	30	93.3
15~19				4	3	7	8	5		7	34	100.0
20~29	6	3	5	13	14	33	22	10		9	115	87.8
30~39	8	7	7	6	17	13	11	7		2	78	71.8
40~49	10	4	6	10	4	7	4			1	46	56.5
50~59	4	6	7	1	5	3	2	2			30	43.3
60~	9	4	2	9	5						29	48.3
総計	58	27	29	48	54	67	60	41	23	407	72.0	

表2

年齢区分											抗体保有率	
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍 $\leq$	総計	40 $\leq$ (%)	
0~4	4	13	5	2				1		25	12.0	
5~9				1	3	5	3	4	4	20	100.0	
10~14				3	5	5	9	3	5	30	100.0	
15~19	1	2	5	4	4	3	7	5	3	34	76.5	
20~29	3	10	10	21	12	23	17	12	7	115	80.0	
30~39	2	7	9	8	18	15	8	6	5	78	76.9	
40~49	6	2	7	7	9	7	3	4	1	46	67.4	
50~59		7	2	4	4	8	3	2		30	70.0	
60~	2	6	5	3	1	7	2	3		29	55.2	
総計	18	47	43	53	56	73	52	40	25	407	73.5	

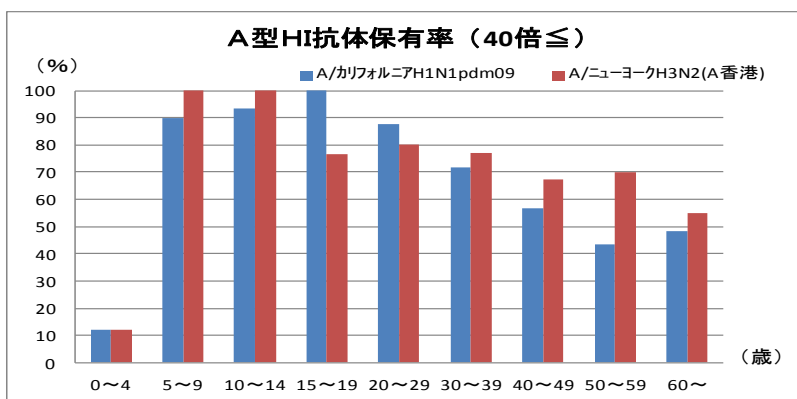


図1

## 2 B型のHI抗体保有率

B/Massachusetts (マサチューセッツ) /02/2012 (山形系統) の抗体保有率は、10～14 歳が 93.3%と最も高く、50～59 歳が 26.7%と最も低かった。

B/Brisbane (ブリスベン) /60/2008 (ビクトリア系統) の抗体保有率は、10～14 歳が 93.3%と飛びぬけて高かった。

両系統とも昨年度より、全体の抗体保有率は高かった。

表3

B/マサチューセッツ(山形)											抗体保有率	
年齢区分	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍	≧	総計	40≧ (%)
0～4	22	3									25	0.0
5～9	2	3	5	3	6	1					20	50.0
10～14	1	1		11	8	4	5				30	93.3
15～19		2	3	6	4	13	4	2			34	85.3
20～29	2	1	10	19	28	36	13	6			115	88.7
30～39	10	8	4	19	14	14	7	2			78	71.8
40～49	5	7	9	16	4	3	1	1			46	54.3
50～59	5	6	11	5	3						30	26.7
60～	5	11	5	3	4		1				29	27.6
総計	52	42	47	82	71	71	31	11			407	65.4

表4

B/ブリスベン(ヴィクトリア)											抗体保有率	
年齢区分	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍	≧	総計	40≧ (%)
0～4	24	1									25	0.0
5～9	1	1	4	4	2	5	2	1			20	70.0
10～14	1	1		8	5	9	3	2		1	30	93.3
15～19		8	11	10	2	2	1				34	44.1
20～29	21	19	24	30	15	3	3				115	44.3
30～39	11	9	8	18	16	9	6	1			78	64.1
40～49	3	5	3	19	13	1	2				46	76.1
50～59	6	5	5	9	3	2					30	46.7
60～	6	6	11	4	1	1					29	20.7
総計	73	55	66	102	57	32	17	4	1		407	52.3

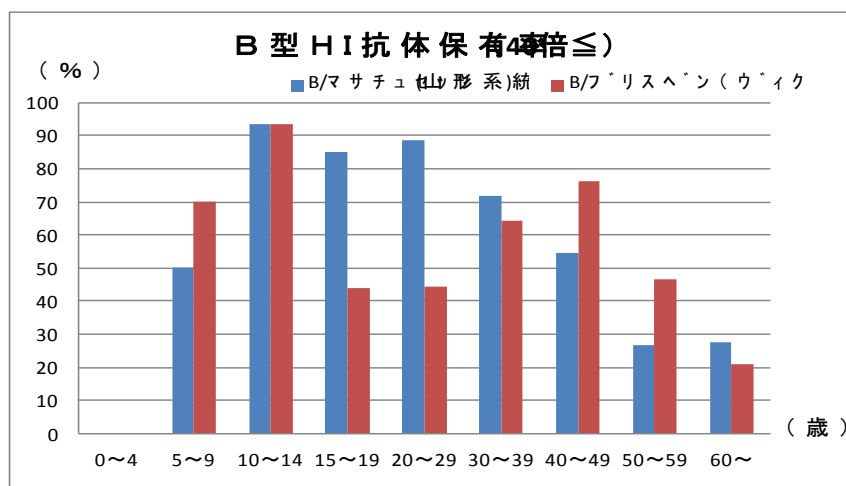


図2

## 3 まとめ

2013/14 シーズンの患者数は 11,431 人で、前シーズンの 11,583 人よりも減少した。最も多く検出された型は A 型 H1N1pdm であった。今シーズン (2014/15) は、例年よりも早く流行し始め、大半は AH3 型である。

世界では、中国で H7N9、エジプト等で H5N1 などの鳥インフルエンザウイルスの感染が報告されている。変異により、新型インフルエンザが発生することが考えられるため、今後の動向に注意が必要である。

## 麻しんと風しんの抗体保有状況

平成 26 年度の感染症流行予測調査事業では、県内の 407 名（男性 216 名、女性 191 名）に協力を得て、抗体保有状況を調査した。

平成 24 年の麻しん排除を目標に平成 19 年 8 月、厚生労働省から「麻しん排除計画」が策定され、平成 20 年 4 月 1 日から 5 年間限定で中学校 1 年生、高校 3 年生に相当する年齢者への定期接種が行われたが、一定の効果が得られたことから平成 25 年 3 月に終了した。

### 1 麻しん

表 1 にゼラチン粒子凝集法(PA 法)による年齢区分別麻しん抗体価と麻しんワクチン接種率を示した。抗体陽性である 16 倍以上の抗体保有率は全体で 92.9%、感染を防御できると考えられている 128 倍以上の抗体保有率は全体で 89.2%である。年齢区分別でみると、1 歳以下を除く年齢では 35～39 歳が 82.1%で、その他の年齢層は 90.0%以上であった。

麻しんワクチンの接種履歴があると回答したのは 69.1%であった。なお、表 1 に示したワクチン接種率は、接種履歴不明の集団は除いた値である。

平成 20 年に「麻しん排除計画」が策定され、次の目標を平成 27 年の麻しん排除認定の取得としている。麻しんの排除を達成するためには、予防接種率が 95%以上になることが重要であり、一層の予防接種等の啓発が必要と考える。

表 1

年齢区分	平成26年度 麻しんPA抗体価												抗体保有率(%)		麻しんワクチン 接種率(%)
	<16倍	16倍	32倍	64倍	128倍	256倍	512倍	1024倍	2048倍	4096倍	8192倍≦	総計	16倍≦	128倍≦	
0	10	2	2		1							15	33.3	6.7	0.0
1	8						1		1			10	20.0	20.0	25.0
7～9	1				3	4	8	2	1	1		20	95.0	95.0	100.0
10～14				1	7	6	4	10	2			30	100.0	96.7	100.0
15～19					2	8	10	5	7	2		34	100.0	100.0	92.9
20～24	1			1	6	7	9	14	11	5	5	59	98.3	96.6	80.0
25～29					1	6	11	8	5	13	2	56	100.0	98.2	87.0
30～34	4			1	4	5	11	8	5	7	5	50	92.0	90.0	88.2
35～39	3	1	1		1	4	4	5	4	2	3	28	89.3	82.1	100.0
40～	2		2	3	3	16	15	14	14	13	23	105	98.1	93.3	19.4
総計	29	3	5	7	31	55	68	68	56	37	48	407	92.9	89.2	69.1

\* ワクチン接種率は、接種不明を除く。

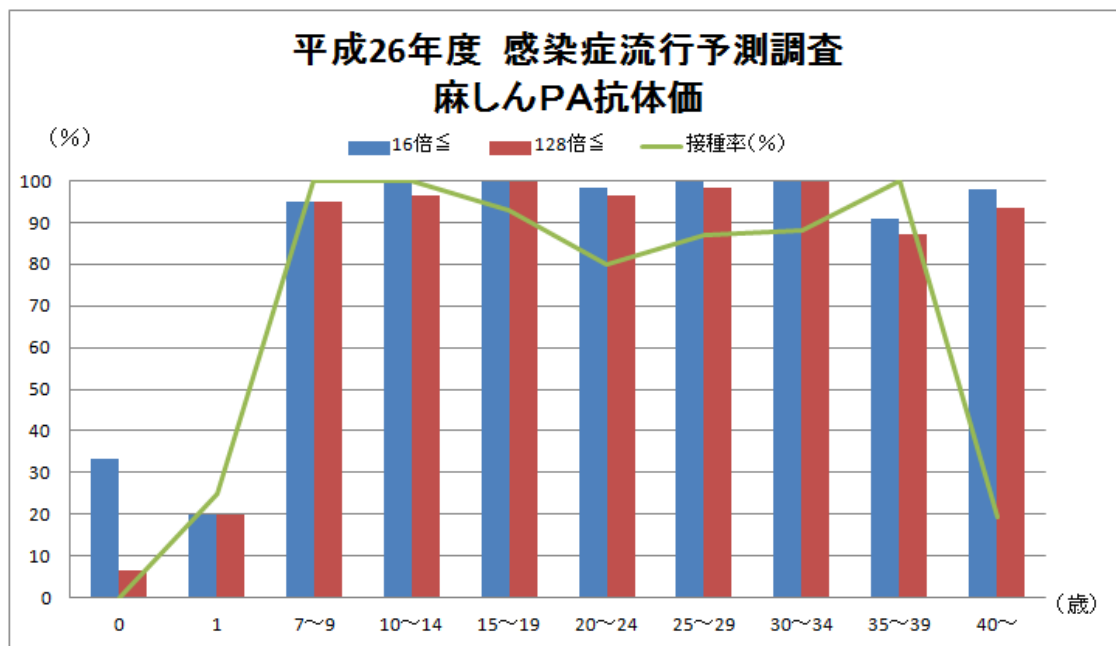


図 1

## 2 風しん

表2に赤血球凝集抑制試験(HI試験)による年齢区分別風しん抗体価と風しんワクチン接種率を示した。風しんのワクチン接種率は、麻しんと同様に接種履歴不明と回答した集団を除いた値である。

風しん抗体陽性である8倍以上の抗体保有率は男性88.9%、女性89.0%、全体では88.9%であった。感染を防御できると考えられる32倍以上の抗体保有率は男性82.9%、女性87.4%、全体では85.0%であり昨年度(91.9%)を下回った。年齢区分別でみると概ね80%以上の抗体保有率であったが、10~14歳の男性が72.2%と低かった(表2、図2)。

平成16年以來の流行が平成24年から25年にかけて関東地方、関西地方等の都市部において20代から40代の成人男性を中心にあつた。平成25年には、14,000人を超える患者及び32人の先天性風しん症候群(CRS)児の出生報告があつた。国では、CRSの発生をなくすとともに、平成32年までに風しんの排除を達成することを目標に、平成26年3月「風しんに関する特定感染症予防指針」を策定した。

表2

年齢区分		平成26年度 風しんHI抗体価										抗体保有率(%)		風しんワクチン 接種率(%)	
		性別	<8倍	8倍	16倍	32倍	64倍	128倍	256倍	512倍	1024倍≤	総計	8倍≤		32倍≤
0	男		5	1	1			1				8	37.5	12.5	0.0
	女		5	1		1						7	28.6	14.3	
1	男		3					1			1	5	40.0	40.0	50.0
	女		5									5	0.0	0.0	
7~9	男				1	5	4	2				12	100.0	91.7	100.0
	女		1				3	2	1	1		8	87.5	87.5	
10~14	男			2	3	3	4	3	3			18	100.0	72.2	100.0
	女					9	1	2				12	100.0	100.0	
15~19	男		2	1	1	1	9	7	4			25	92.0	84.0	95.5
	女					3	4	2				9	100.0	100.0	
20~24	男				1	6	7	9	8	2	1	34	100.0	97.1	89.5
	女		1			5	6	6	6		1	25	96.0	96.0	
25~29	男		4	1		6	7	6	7	1	1	33	87.9	84.8	58.3
	女		3				4	8	5	1	2	23	87.0	87.0	
30~34	男		4			2	4	7	2	2		21	81.0	81.0	71.4
	女		3			2	7	7	6	4		29	89.7	89.7	
35~39	男		1	1			3		7	2	1	15	93.3	86.7	100.0
	女		1	1			2	2	2	2	3	13	92.3	84.6	
40~	男		5			6	6	9	9	5	5	45	88.9	88.9	8.3
	女		2		1	4	9	22	9	4	9	60	96.7	95.0	
総計	男		24	6	7	29	44	45	40	12	9	216	88.9	82.9	71.6
	女		21	2	1	24	36	51	29	12	15	191	89.0	87.4	
	計		45	8	8	53	80	96	69	24	24	407	88.9	85.0	

\* ワクチン接種率は、接種不明を除く。

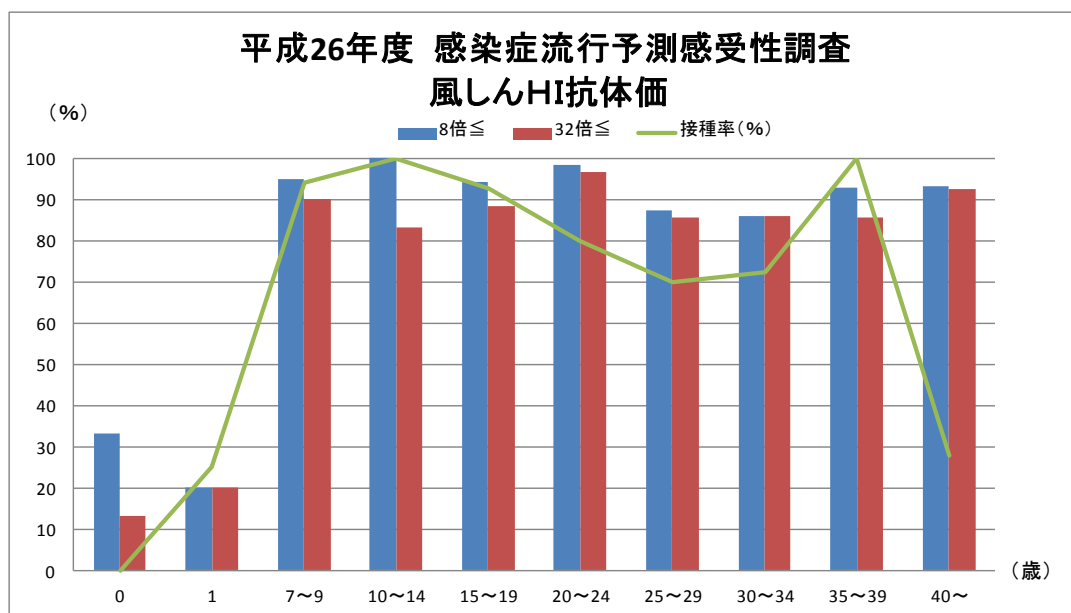


図2